

# 支援のバトンをつなごうワークショップ 研修事業

特定非営利活動法人子育て支援を考える会 TOKOTOKO

〒478-0065 愛知県知多市新知東町1丁目3-4

## 助成事業の概要

当法人は、平成21年度より、「支援のバトンをつなごうワークショップ」を開催し、子どもの発達に携わる行政機関・専門職と協働し、個別な配慮を要する子どもの支援情報が、子どもが育つライフステージに沿って的確につながっていく仕組みづくりの検討を重ねてきた。平成22年度には、個別支援計画を綴る「成長ファイル」を作成し、赤ちゃん訪問時に全戸配布するに至った。

本事業は、保護者、地域の子育て支援活動を推進する市民団体、子ども・家庭支援に携わる保健師、保育士、幼稚園教諭、小中学校特別支援コーディネーター、乳児期から学童期の子ども・家庭支援に携わる関係各課の行政関係者が集い、子ども理解を深め、援助スキルを向上させる研修や、「成長ファイル」の活用方法や、支援情報がバトンのようにつながっていく方策を協議する計6回のワークショップ研修を実施した。また、ワークショップの成果物として、様々な立場からの意見を反映させ、「成長ファイル」の周知をめざした保護者用チラシと、支援者用に、乳児期から学童期までの「支援の流れ図」を作成・配布し、早期からの子どもの発達支援・家庭支援活動がより一層充実していけるようにした。

## 事業の成果

1. 助成金を得たことで、自分たちが年次を重ねる中で感じた必要感にたって、支援者が援助スキルを向上させる研修や、その成果物として、保護者用

チラシ・支援の流れ図の作成・配布が実現できた。早期から、支援情報が的確につながっていく意義の周知や援助スキルが向上できたことが本事業と成果と言える。そのことは、発達障害等の個別な支援を要する子どもの福祉向上と、保護者の育児負担の軽減が図られる効果につながる事が考えられる。

2. ワorkshop研修は、講義を聞くという形のみならず、親・市民活動・保健師・保育士・教員、行政関係者等が共に集い、同じテーブルについて、共通なテーマで議論をする演習形式を取り入れた。乳児期から学童期までの立場の違いを超えて情報交換する機会となり、お互いに視野を広げることができ、顔の見えるネットワークが広がり、子どものライフステージの社会資源に目をむける成果を生み出した。そのことは、子ども・家庭がもつニーズの理解と、総合的な支援の広がりにつながり、地域の福祉の向上の効果につながる事が考えられた。

3. 本事業は、行政とNPOで構成する運営委員会を設置し事業を推進させた。このことにより、行政とNPOの協働関係が深まり、NPO法人がもつ専門性・柔軟性を発揮し、全体をコーディネートすることで、縦割りになりがちな行政の壁を越えて、幅広い組織の連携を可能にさせた。また、お互いのもつ良さが発揮できる取り組みが実現できた。

## 成果の広報、公表

ワークショップの成果物として作成した保護

者用チラシは、健康推進課事業「こんにちは赤ちゃん訪問」時において、「成長ファイル」と共に配布し、取り組みの周知を図る。また、子育て支援課でも、市広報誌などに掲載し広報に努める。

支援者用の乳児期から学童期までの「支援の流れ図」は、幼児保育課、学校教育課、青少年支援課などの行政組織を通して、各現場に配布し、周知徹底する。また、市民活動団体へは、知多市の子育て支援ネットワーク推進連絡会が主催する「子育て支援ネットワーク会議」や社会福祉協議会などを通して、地域の市民団体に周知を図っていく。次世代育成支援後期計画が終盤を迎え、新施策の策定の時期を迎えているので、さまざまな立場の者がつながり発展させていく一つのモデルとして、市の施策にも反映できるようにしていく必要性を感じている。

## ■ 今後の展開

子ども・家庭支援の充実を図る活動は、継続することに意義があると考えている。本来は、市町村が中心になり、事業推進すべき課題ではあるが、市町村の予算が厳しい中、取り組みを継続させる財源の確保が大きな課題となる。また、NPO と協働することで、NPO が全体コーディネイトをすることで、縦割りの壁を取り除き、より幅広く、専門性の高い取り組みが実現できる良さがある。次年度は、今年度の事業成果を踏まえて、「つなぐ」「つながる」をキーワードにしたワークショップを継続開催し、乳児期からの支援情報が、子どものライフステージに沿って的確につながっていく仕組みを構築していけるよう、活動を継承・発展させていきたい。